

「学生による授業評価」のまとめ 2007 年度秋学期刊行にあたって

南山大学ファカルティ・ディベロップメント (FD) 委員会
委員長 神谷 俊次

秋学期の「学生による授業評価」(以下、授業評価)は、2007 年 12 月から 2008 年 1 月にかけて実施されました。ご協力いただいた皆さんに心より感謝申し上げます。

今学期も、これまでと同様に、専任・非常勤にかかわらず、1 教員 1 科目を授業評価の対象としました。これは、すべての教員が授業評価を毎学期実施することと、学生および教員に過大な負担が掛からないように配慮しているためです。評価対象科目の選出ルール等の詳細につきましては、教員向けの FD 関連 Web ページに掲載していますので、そちらをご覧ください。なお、授業評価の概要につきましても同 Web ページで開示しています。

1 授業評価の実施方法

対象科目 各教員につき、それぞれの担当科目のうち 1 科目が選ばれました。なお、JABEE (日本技術者教育認定機構) 申請のために、数理情報学部の JABEE 申請準備委員会が指定する科目は、すべて授業評価の対象としています。両キャンパス総計で 538 科目が対象となりました。

設問項目 設問は 18 個あります。ただし、実際の授業評価用紙 (マークシート) には 19 番から 21 番までの番号も印刷されています。これは、JABEE 申請準備委員会が指定する科目用に追加されたものです。設問 1 から 3 までは、学生の授業参加 (出席、予習復習など) を問う内容です。4 番から 18 番は、教員の授業運営や授業全体に関して問う設問になっています。また、裏面は自由記述欄になっています。

実施・回収手順 授業評価の実施には教員が立ち会いますが、匿名性の観点から、受講生の代表者が授業評価用紙を回収し、事務担当部署に提出する方式を採っています。

作業手順 2007 年 12 月 ~ 2008 年 1 月実施 集計作業 FD 委員会による自由記述欄の閲覧 (2 月) 教員へ集計結果を通知 (2 月) 教員から報告書提出 (2 ~ 3 月) FD 委員会で結果の分析・検討 (4 月) 「南山大学『学生による授業評価』のまとめ 2007 年度秋学期」の発行 (5 月)

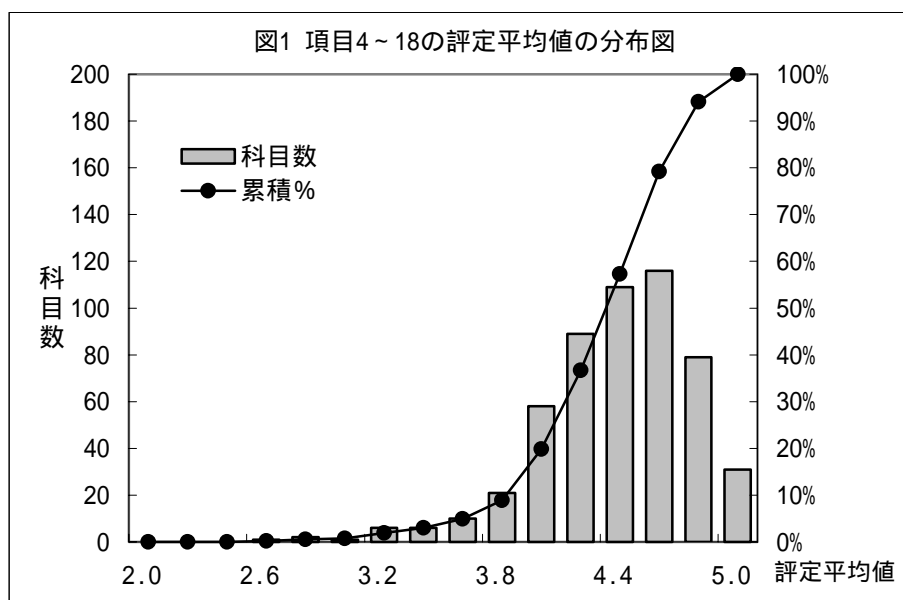
2 集計結果の概要（2008年5月30日現在）

結果の概要は、括弧つきの頁部分に記載されています。

実施率 大学全体では、授業評価の実施率は 99.3%（534 / 538 科目）でした。キャンパス別にみると、名古屋 99.5%（411 / 413 科目）、瀬戸 98.4%（123 / 125 科目）でした。

報告書提出率 大学全体では、報告書の提出率は 99.1%（533 / 538 科目）でした。名古屋 99.5%（411 / 413 科目）、瀬戸 97.6%（122 / 125 科目）です。

評定平均値 設問 1 から 3 までの学生の授業参加を問う項目と設問 4 以降の教員の授業運営や授業全体に関する項目は、性質が異なりますので、2 種類の平均値を算出しています。1 番から 18 番までの項目全体の平均値は、4.12 でした。また、受講生の授業参加姿勢に関する項目を除いた 4 番から 18 番の平均値は 4.21 でした。この平均値について分布の様子を図 1 に示しました。分布のピークが 4.4 ~ 4.8 点にあります。また、362 科目（電算処理実施科目の 68%）が評定平均 4.2 以上となっています。5 点満点で、この数値ですから、全体としては、満足のいく結果といえるでしょう。今回の授業評価では、4 番から 18 番の評定平均値が 3.0 未満であった科目は 4 件でした。当該科目の授業担当者には、授業改善方策の検討を別途お願いしました。



どんなに高い評価を受けた授業でも、一部の受講生からは厳しい見方がされています。個々の受講生の評定値よりも、クラス全体としての評価が重要と考えますので、すべての設問について評定平均値の分布の様子を図 2-1 から図 2-18 に示しました。

2-1 授業への出席

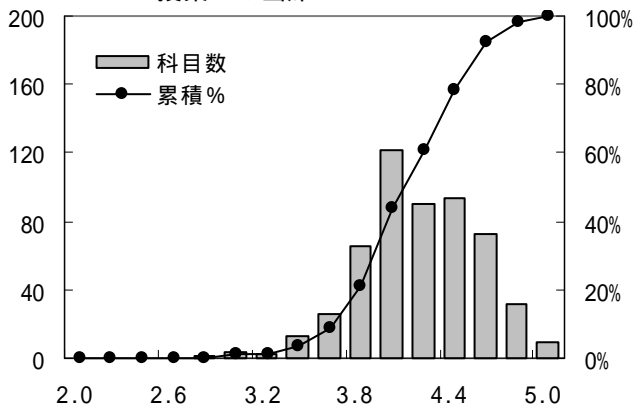


図2-2 私語などせずに授業に取り組んだ

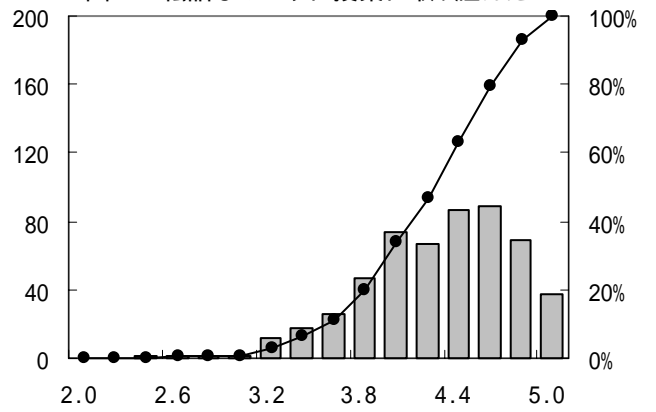


図2-3 予習や復習など自主的な学習の実行

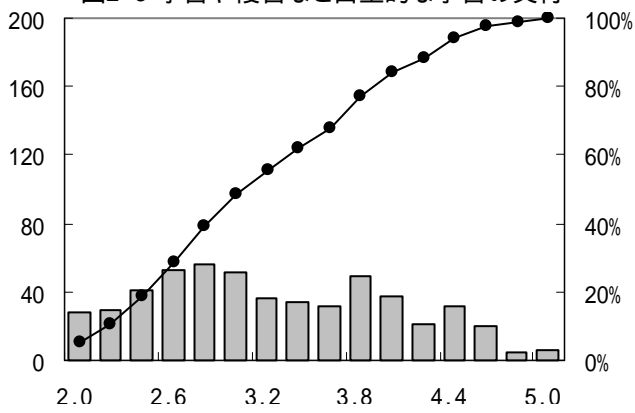


図2-4 授業時間の厳守

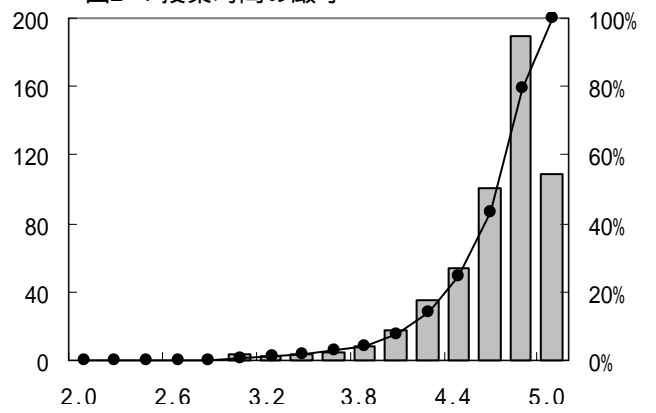


図2-5 授業の構成や進行速度が適切

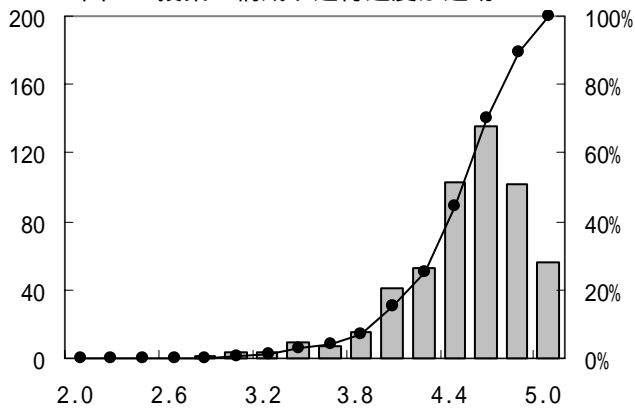


図2-6 学修目標の明示

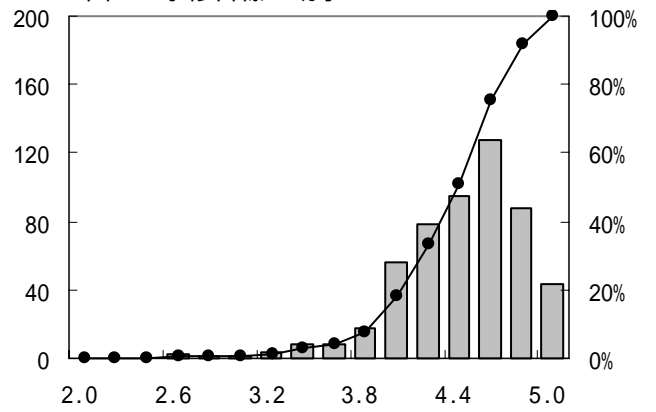


図2-7 シラバスの有用性

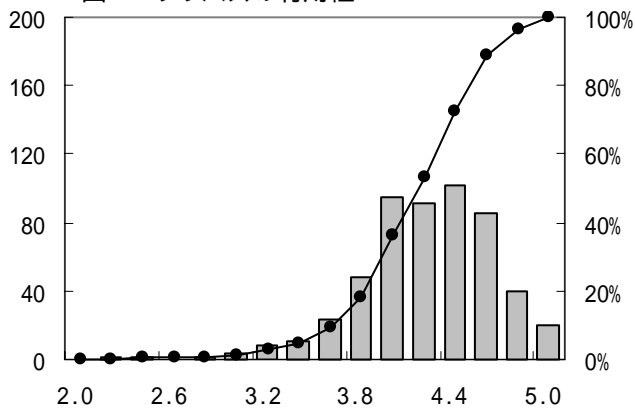


図2-8 教員の声

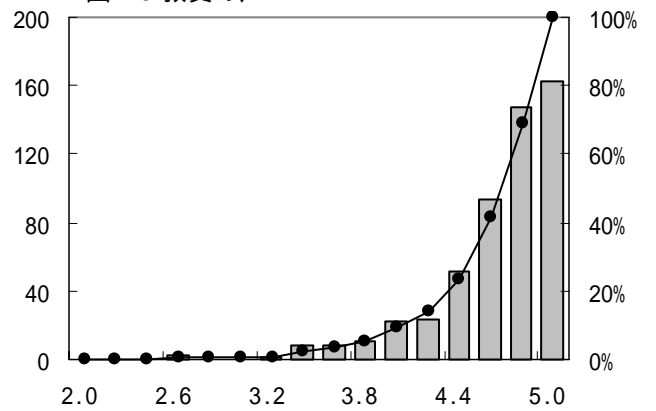


図2-9 学生の理解度に配慮した授業の進め方

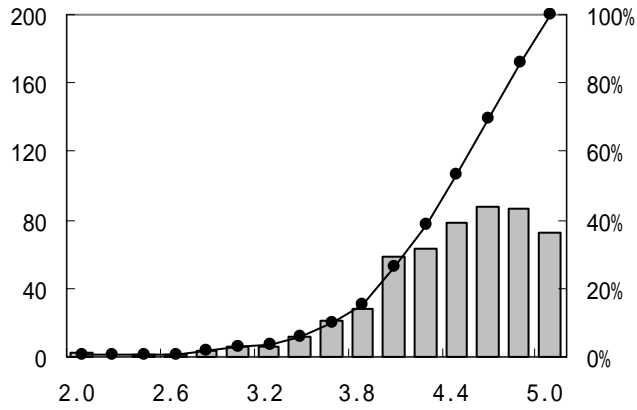


図2-10 授業の妨げになる行為に適切な対処

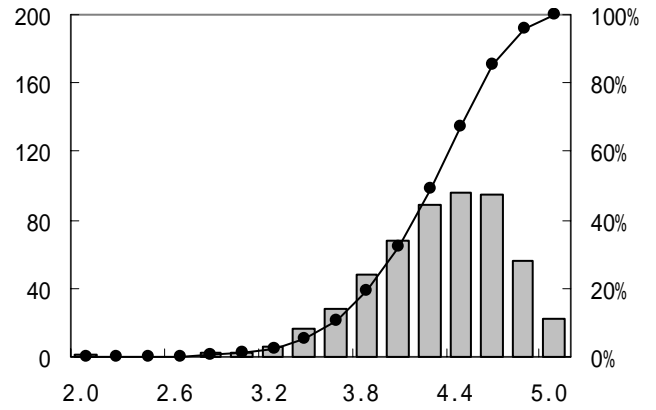


図2-11 教科書、板書、配布資料などの効果性

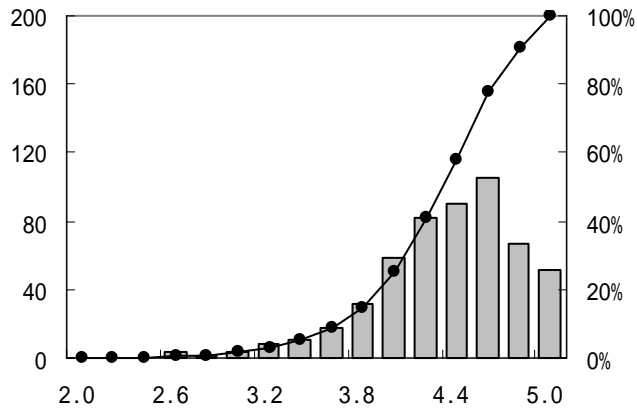


図2-12 学生の学習意欲を引き出す工夫

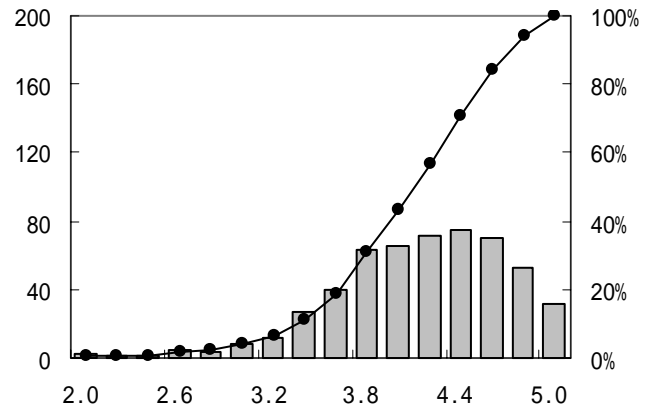


図2-13 自主的学習のための指導・情報提供

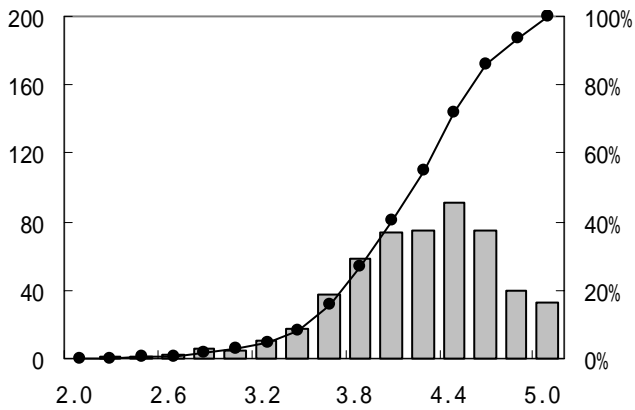


図2-14 質問や相談の機会

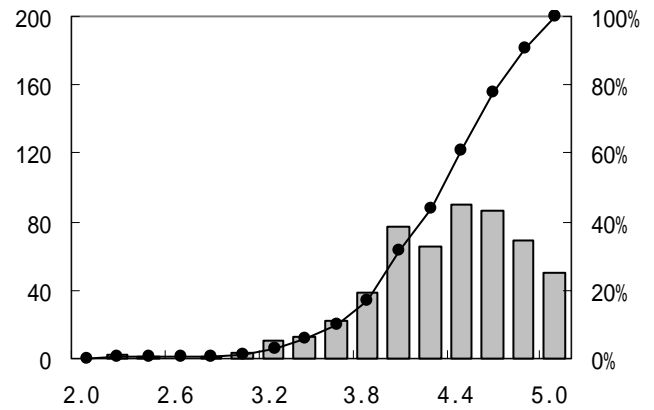


図2-15 担当教員の姿勢の誠実さ、真剣さ

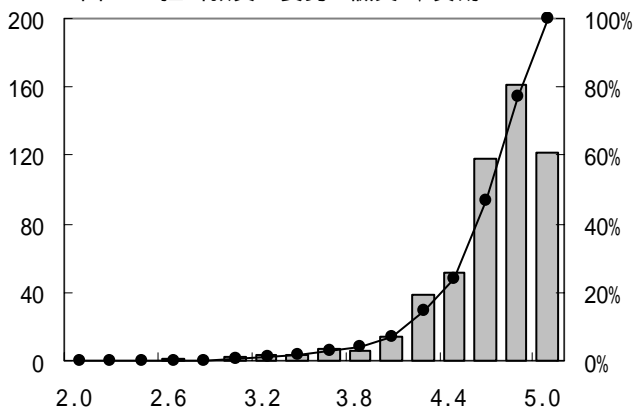


図2-16 授業に関連する内容へのさらなる興味

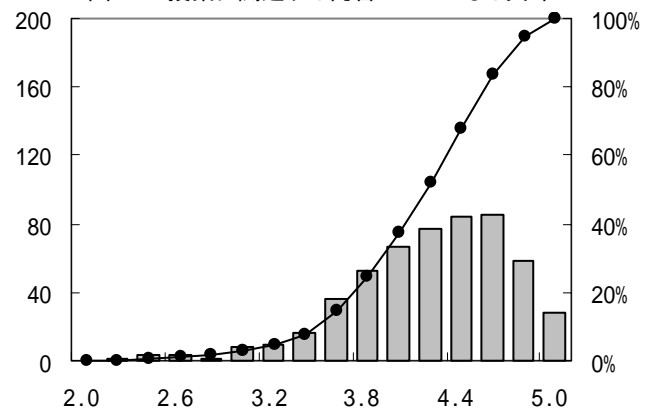


図2-17 新しい知識や理解の深まり

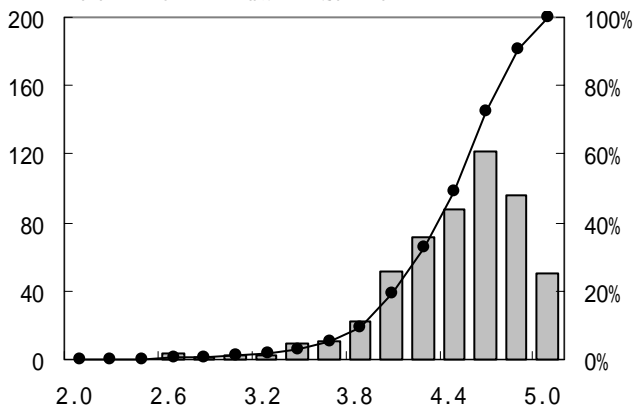
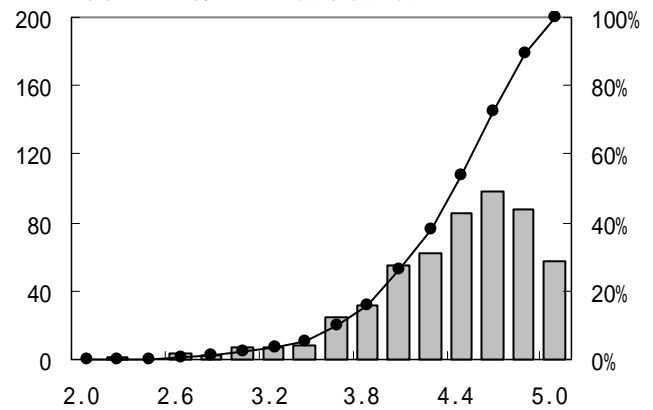


図2-18 全体としての授業満足度



大学全体の平均が 4.5 以上の設問は、4 番（授業の開始と終了の時間はきちんと守られていましたか）、8 番（教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか）、15 番（担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたか）でした。とくに、15 番の評定が高い点は特筆すべき長所で、南山大学の教員が授業に真剣に取り組んでいることが窺えます。

一方、受講生の授業への取り組み姿勢は、例年どおり芳しくありませんでした。それぞれの授業で、学生が積極的に学ぶ仕組みを考える必要があります。

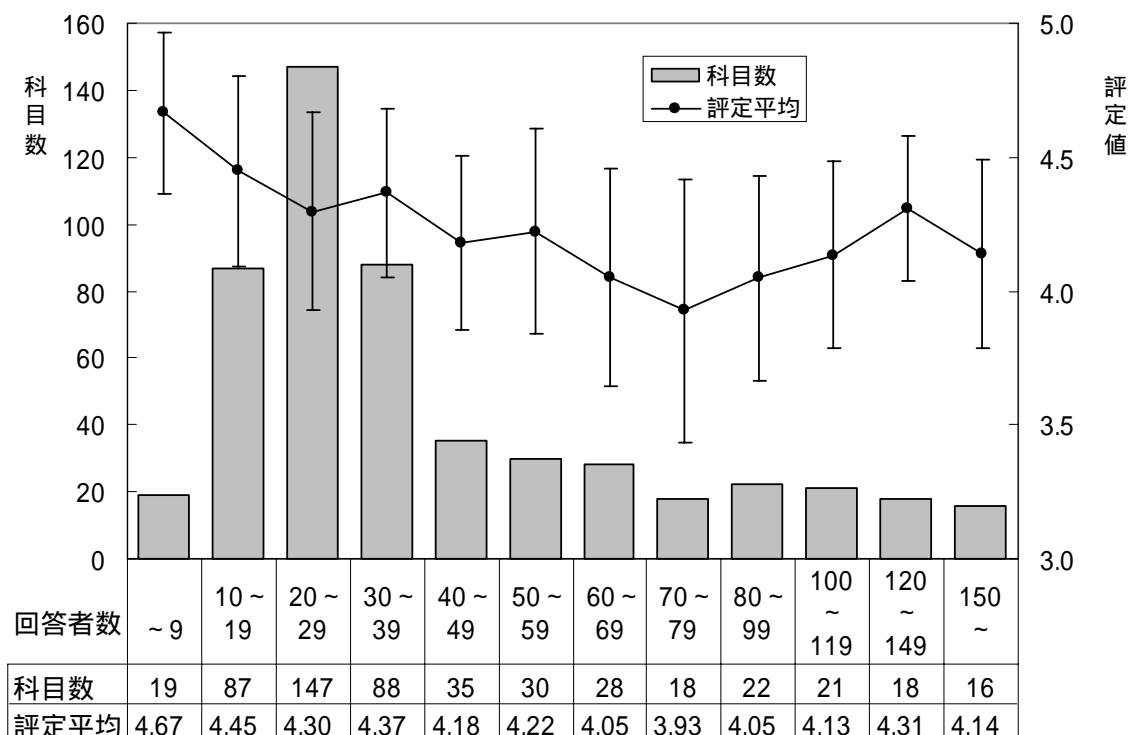
設問 18（全体として、あなたはこの授業に満足しましたか）は、授業評価項目の見直しがあっても一貫して設定されてきた重要な設問です。電算処理実施科目のうち 76.9%の科目が 4 点以上の評定値であり、全体としては、満足しているという意見が多いといえます。その一方で、設問 18 で 3 点未満の評価を受けている科目が 10 科目あります。今学期は、これらの科目の授業担当者に対しても、授業運営に問題点がないか検討をお願いし、授業改善方策報告書の提出を求めました。

3 回答者数に基づく評価結果の分析

今学期の報告書では、実際に授業評価に回答した人数の観点から分析した結果を報告します。授業によってクラスサイズが大きく異なるのに、それを考慮せずに論じるのは問題であるといった声をよく聞きます。従来、受講者数が多くなるほど授業評価は概して低下すると認識されてきました。これまでも「読み取り枚数別集計」を報告書に掲載してきましたが、2007 年度春学期の授業評価結果を詳細に分析する過程で、回答者が 20 人を超えると、回答者数は授業評価結果にそれほど影響しないという印象を受けました。これまでの認識と異なる知見でしたので、もう 1 学期様子を見てみることにしました。2007 年度秋学期のデータに関して分析した結果を図 3 に示しました。結果は、春学期と同じパターンでした。回答者数が 20 人以下の授業は、高評価になっていますが、20 人を超えると、回答者数と評定平均値の間にはそれほど強い関係は認められ

ません。逆に言えば、多人数講義でも、高い評価を受けている授業がかなりあるということになります。多人数講義でよい授業をいかに行うかということは多くの大学で問題になっていますが、南山大学では、多人数講義を担当している教員がかなり努力をしていることが推察されます。

図3 回答者数と評定平均値の関係



4 教員ごとの結果の見方

括弧のついていない頁番号のところは、教員ごとの結果です。本冊子では、原則として1頁に2件分の結果をまとめて表示しています。

それぞれ、次の要素からなっています。

科目名、教員名、休講・補講回数、回答率など 「回答率」は、登録人数のうち、実際の回答者数の割合を表しています。通常の調査と同様、回答率が極端に低い場合には、そのデータの信頼性に疑問が生じることになります。

レーダーチャート2種類 右下の図は、回答者全員の集計結果です。左上の図は、項目1から3の授業参加姿勢の評定平均値が、3.0以上の学生だけに絞って集計した結果です。

「授業評価結果を踏まえた点検・評価」 各教員が今回の授業評価結果を踏まえて書いた報告です。結果の自己点検・評価や、次学期に向けた改善策な

どが書かれています。

5 授業評価結果の活用

授業評価は、授業担当者が、自身の授業をよりよいものへと改善していくために役立つ情報を、学生の皆さんから収集するために行われています。

各授業担当者は、評価項目の評定平均値や、自由記述欄に書かれた「授業の良かった点」や「改善すべき点」を参考にして、自分の授業について点検・評価しています。授業を担当するすべての教員が、学生の皆さんの声を真摯に受け止めて授業改善に努力しています。

FD 委員会では、一定の基準に合致した科目（高評価科目および低評価科目）について、授業評価用紙の裏面に書かれた自由記述欄を閲覧しています。これは、学生の皆さんがどのような授業を高く評価しているのか、また、授業運営上のどのような問題点の改善を望んでいるのかを明らかにするためです。

多くの受講生によって指摘されている授業の問題点や改善要望点については、FD 委員会で検討した後、授業担当者と話し合いの機会をもち、改善に向けた具体的な方策を考えています。授業担当者に問題点に応じた研修を求める場合もあります。

高い評価を受けた科目では、どのような授業が展開されているのか、あるいは、どのような点が受講生から評価されているのかをまとめ、教員向けの FD 関連 Web ページ内の、学内 GP（優れた授業例紹介）のコーナーで公開しています。多くの授業担当者に、有効な教授方法や授業改善の手掛かりを提供するためです。

自由記述欄に書かれた授業環境（照明、空調、机・椅子、視聴覚機器、外の雑音など）に関する要望については、関係部署や自己点検・評価委員会で取り上げて、授業環境の整備に努めています。また、授業評価方法に関する意見については、FD 委員会で取り上げて、授業評価方法の見直しに役立てています。

以上